

平成 2 6 年 6 月 2 5 日現在

機関番号：6 4 3 0 2

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2012～2013

課題番号：2 4 6 5 2 0 5 5

研究課題名（和文）舟橋聖一全資料作成に基づく 戦前期 文学の総合的研究

研究課題名（英文）Funahashi Seiichi: Advanced Research on Pre-1945 Literature Utilising His Complete Archive

研究代表者

石川 肇（ISHIKAWA, HAJIME）

国際日本文化研究センター・研究部・プロジェクト研究員

研究者番号：8 0 5 9 6 7 3 4

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,200,000 円、（間接経費） 660,000 円

研究成果の概要（和文）：昭和戦前期に知識人の行動主義を唱えて「ダイヴィング」（昭9）を発表、戦後においてはNHK大河ドラマの第一作目「花の生涯」（昭27）などを執筆、丹羽文雄・石川達三とともに「戦後の流行作家三羽ガラス」と呼ばれた舟橋聖一の、戦前期活動の総てを網羅すべく調査・研究を行い、多くの新資料を発見した。そして彼の旧制高等学校時代から「外地」体験を経て終戦に至るまでの主要作品を分析し、国内外のシンポジウムで発表後、論文を雑誌または単行本として刊行させた。

研究成果の概要（英文）：This research project exhaustively investigated the pre-war II activities of Funahashi Seiichi, who was well known as "three of the most famous writers in post-war II era" together with Niwa Fumio and Ishikawa Tatsuzo. He was also an energetic advocate of the activism of intellectuals in pre-war Showa era and released his famous "Diving" (1934). After World War II, his historical novel, "Hana no Shogai" (1952) was reproduced by NHK as the first series of Taiga Drama. In tracing the life track of Funahashi, plenty of unknown materials were firstly found. Moreover, Funahashi's main works, from the time he studied at the former higher school, went abroad toward the end of World War II, were also closely analyzed. The research findings listed above had been presented at domestic and international symposiums, and also published in journal essay and book form.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・日本文学

キーワード：舟橋聖一 近代文学 戦争 外地 旧制高校 新資料 芸術至上主義 日記

1. 研究開始当初の背景

H22 年 11 月、人間文化研究機構は、国立大学付属研究所と連携し、日本人移民資料の収集や整理を行うプロジェクト「日本関連在外資料調査研究（近現代）」（2010～2016）を発足した。研究代表者は、そのプロジェクトの一環として海外向け欧文プロパガンダ紙『Japan To-day』（文藝春秋社、1938）の研究を行い、日中戦争期に日本文化の国際性をアピールした舟橋聖一ら 4 人の作家たちの英文記事を翻訳し、解説を付した。そしてその成果を、鈴木貞美編『「Japan To-day」研究 - 戦時期「文藝春秋」の海外発信』（作品社、2011）として世に提供することができた。これまで「外地」とは無縁とされていた舟橋が、上記のような記事を書いていたことや、それ以前の 1929 年には大連・奉天・新城へ 4 ヶ月の旅を決行し、それに材を得た小説を残していることもわかった。滋賀県彦根市立図書館内「舟橋聖一記念文庫」にそれらを示す著作行動目録はあるが、その内実は検証されていない。また、舟橋の残した戦前戦後の文化的価値の高い資料類は未整理のままである。こうした事実確認および新資料の発見を繰り返す中で、研究代表者は本研究の着想に至った。

2. 研究の目的

舟橋聖一は戦前・戦中・戦後を通じて日本文学界を牽引し続けた作家であり、著作や資料を調査するだけで、当時の文化状況のみならず政治経済の動向までもが浮かび上がってくる稀有な存在である。しかしながら、舟橋の残した著作や資料の多くは未だ手つかずのままであり、その全貌をうかがうにはほど遠い。本研究は、(1) 舟橋およびその周辺の人物たちと満洲・朝鮮・樺太といった外地との関連資料をふくめ、「舟橋聖一全資料」を、滋賀県彦根市立図書館内「舟橋聖一記念文庫」と舟橋聖一長女・舟橋美香子氏の全面協力によって総合整理し、公表の準備を進めること、(2) 舟橋聖一の戦前・戦中期の仕事とその歴史的意義を、終戦間際に刊行した『悉皆屋康吉』（1945・5）までを対象として解明することを目的とする。

3. 研究の方法

平成 24 年度は、「戦前」と国内調査に特化した研究を進めた。舟橋聖一の戦前の著作・資料・書簡類をピックアップし、戦前版「著作行動資料年譜」を作成する。その後、資料や舟橋聖一長女・美香子氏へのインタビューをもとに、国内調査によって関東大震災から文学報国会までの内実を実証的に検証し、戦時期知識人らの動向を解明した。

平成 25 年度は、「戦後」と海外調査に特化した研究を進め、戦後版「著作行動資料年譜」を作成し、戦前版と合わせて完成版とする。初年度の調査を活かし、旧「満洲国」へ現地資料蒐集とフィールド調査に行く。葉書・書

簡類の整理や音声テープのデジタル化、生原稿の整理など、戦後資料からも戦前を考察する。そして初年度からの蓄積の結果を、国内外のシンポジウムで発表・発信し、雑誌等に投稿する。それらをすべて統合して研究成果報告書を作成する。

4. 研究成果

平成 24 年度は、

(1) これまで不明だった戦前期の 900 近い舟橋作品（戯曲・小説・詩・評論随筆など）の作品発表年表を作成し、その際、従軍も従軍記者もつとめてなかったことから「外地」と関連のない作家だと思われていたが、実は「外地」に赴いており、その時の経験をもとに描いた作品もあることがわかった。その研究成果を、北京清華大学で開催された国際シンポジウムで発表した。また、昭和 9 年から 10 年に頂点を迎えた行動主義文学運動に関する作品および資料の発掘による研究成果を、台湾中央研究所で開催された国際シンポジウムで発表した。これにより舟橋作品が東アジア圏と大きな関わりと有意性をもっていることが証明された。また、上記の発表機会を得たことから、次年度予定していた旧「満洲国」におけるフィールド調査も行い、舟橋が関連した新京・奉天・大連の各ヤマトホテルや満鉄資料を蒐集することができた。その成果の一端は彦根市立図書館で公開中である。

(2) 新発見資料『舟橋聖一戦前日記』（1923～38 年）の翻刻に取り掛かり、約半分を完了させた。『日記』の発見は『読売新聞』（6 月 4 日）に掲載された。現在注釈も入れる作業を始めており、これが出版されれば、当時の文壇の動向のみならず、2・26 事件など歴史的事件に関する情報も一般に公開されることとなる。また、旧制水戸高等学校のことも記されていたことから、日本における旧制高校の研究にも寄与できた。

(3) 樺太関連パンフレットを発見したことによりツンドラ加工品の成分が日本で初めて明らかになった。『読売新聞（夕刊）』（7 月 12 日）に掲載された。

(4) 戦時期上海で出版された『現代日本小説選集 第一巻』を発見。これには舟橋聖一「木石」や太宰治「きりぎりす」など、日本人作家 20 人の初めて中国語訳された 25 作品が収録されていた。単行本に収録し刊行。極めて貴重なため、以下に、第一巻、二巻の中国語目次と初出時の日本語タイトルを併記しておく。

『現代日本小説選集 第一集』

「秘色」・・・横光利一（「秘色」『中央公論』昭和十五年一月号）

「不開の門」・・・丹羽文雄（「開かぬ門」『日の出』昭和十五年十一月号）

「往海洋去」・・・葉山嘉樹（「海に行く」『改造』昭和十七年五月号）

「山師」・・・中山義秀（「山師」『文芸』昭和十四年四月号）
 「大学生」・・・林芙美子（「大学生」『婦人公論』昭和十四年十月号）
 「在山峡裏」・・・火野葦平（「山峡にて」『新潮』昭和十六年一月号）
 「枯木」・・・舟橋聖一（「秋美しき」『モダン日本』昭和十四年十月号）
 「解氷期」・・・大瀧重直（「解氷期」『中央公論』昭和十七年六月号）
 「風車」・・・壺井栄（「風車」『文芸』昭和十四年三月号）
 「幸運児」・・・荒木巍（「幸運児」『日本評論』昭和十七年二月号）
 「鴿」・・・窪川稲子（『扉』昭和十六年三月、甲鳥書林、収録作品）
 「蟋蟀」・・・太宰治（「きりぎりす」『新潮』昭和十五年十一月号）
 「冬初」・・・芹沢光治良（「冬のはじめ」『改造』昭和十七年一月号）
 「日麗天和」・・・宇野浩二（「晴れたり君よ」『新潮』大正十三年四月号）
 「冬街」・・・上田廣（「冬の町」『改造』昭和十七年三月号）

『現代日本小説選集 第二集』（昭和十九年四月初版）
 「安南」・・・森三千代（「安南」『中央公論』昭和十七年五月号）
 「地熱」・・・上田廣（「地熱」『文芸春秋』昭和十七年六月、七月、八月号）
 「雨期」・・・上田廣（「雨期」『改造』昭和十八年二月号）
 「帰来独白」・・・高見順（「帰つての独白」『改造』昭和十八年三月号）
 「花種種」・・・高見順（「花さまざま」『知性』昭和十五年七月号）
 「春之記録」・・・芹沢光治良（「春の記録」『文芸』昭和十七年七月号）
 「竹夫人」・・・井上友一郎（「竹夫人」『日本評論』昭和十八年一月号）
 「某女的事」・・・大谷藤子（「或る女の話」『改造』昭和十七年二月号）
 「木石」・・・舟橋聖一（「木石」『文学界』昭和十三年十月号）
 「業苦」・・・嘉村磯多（「業苦」『不同調』昭和三年一月号）

その他、多くの新資料の発掘および関連研究が、今までの文学研究を大きく推し進める源となった。

平成 25 年度は、

(1) 『中村真一郎日記』を用いた「『中村真一郎 青春日記』と旧制高校」座談会を開き舟橋の『日記』を援用しながら司会をつとめ、竹内洋・鈴木貞美・依岡隆児らとともに考察、会場と活発なやり取りを行った。その結果を「『中村真一郎 青春日記』と旧制高校」(『中村真一郎手帖 第 8 号』水声社)として刊行

した。

(2) 東北というテーマに沿って「舟橋聖一」(『東北近代文学事典』勉誠出版)を書いた。父と妻が仙台出身であり、平民首相と呼ばれた盛岡出身の原敬が殺された理由を、東北を背景としながら解いていく作品を描いていることもわかった。

(3) 関西性欲研究会主催、井上章一編『性欲の研究』(平凡社)講評を、舟橋作品が「みみず千匹」という語を初めて小説に用いたことなど、舟橋文学がもつ多様性を柱として行った。

(4) 舟橋の「外地」体験調査結果を、北京清華大学で開催された国際シンポジウムで発表後、「舟橋聖一の満鮮体験」(『解釈 第五十九巻』)とし、日本 中国大陸 韓国という当時のツーリズムに従った作家の動きとその作品を分析した。論文は、中国遼寧大学日本研究所において中国語訳され、遼寧大学の雑誌『日本研究』に「占前日本文学家筆下的中国東北」として掲載された。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 4 件)

石川 肇、占前日本文学家筆下的中国東北、日本研究、査読無、145 巻、2013 年、48 - 52 頁

石川 肇、舟橋聖一の満鮮体験、解釈、査読無、59 巻、2013 年、2 - 10 頁

石川 肇、勉誠出版、東北近代文学事典、2013 年、775 頁

石川 肇、パネルディスカッション「『中村真一郎 青春日記』と旧制高校」、中村真一郎手帖、査読無、第 8 号、2013 年、5 ~ 50 頁

〔学会発表〕(計 3 件)

石川 肇、舟橋聖一の満鮮体験 - 新資料『ゴルフと天麩羅』『植民地の礼儀』を読む、国際シンポジウム「東アジアの文化交流における旅の表象」、2012 年 7 月 27 日 ~ 2012 年 7 月 28 日、北京清華大学(中国・北京市)

石川 肇(依岡隆児、竹内洋、鈴木貞美)、パネルディスカッション「『中村真一郎 青春日記』と旧制高校」、国際日本文化研究センター共同研究会、2012 年 9 月 16 日、国際日本文化研究センター(京都市)

石川 肇、田村泰次郎『日月潭工事』から考える日本の『行動主義文学』、国際シンポジウム「東アジアにおける知的交流 キー・コンセプトの再考察」、2013 年 3 月 17 日 ~ 3 月 19 日、台湾中央研究院

〔図書〕(計 2 件)

石川 肇、勉誠出版、東北近代文学事典、2013 年、775 頁

石川 肇(鈴木貞美・李征編)、勉誠出版、上海 100 年 - 日中文化交流の場所、2013

年、281 頁

6 . 研究組織

(1)研究代表者

石川 肇 (ISHIKAWA Hajime)

国際日本文化研究センター・研究部・プロ

ジェクト研究員

研究者番号： 8 0 5 9 6 7 3 4